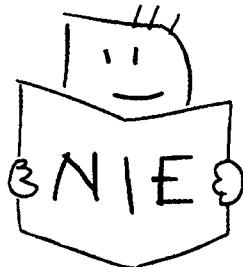


N
I
E

実践報告書

2024(令和6)年度



Newspaper in Education

群馬県NIE推進協議会

N
I
E

実践報告書

2024(令和6)年度



群馬県NIE推進協議会

Contents

ごあいさつ	群馬県 NIE 推進協議会	栗 原 幸 正
「文章の内容を、論理的に読むことができる児童の育成」を 目指すための NIE の活用		
～新聞を活用して語彙力を向上させよう～	千代田町立東小学校	6
「新聞に慣れ、親しむ」児童の育成		
～「授業実践」「NIE タイム」を通して～	千代田町立西小学校	10
新聞を活用して考えを広げられる児童の育成		
～新聞に親しみ、学びをつなげられる実践を通して～	館林市立第五小学校	14
教育活動の充実を図るための NIE の活用		
～新聞に慣れる、触れる、親しむ、活動を通して～	千代田町立千代田中学校	18
中学校の教育活動における NIE の活用		
高山村立高山中学校	22	
主体的に学びに向かう生徒の育成		
～新聞記事を活用して、自らの考えをもち、比較し深める～	沼田市立薄根中学校	25
交流し、広い視野をもつための NIE の活用		
～授業での活用と作品投稿、NIE タイムを通して～	太田市立北の杜学園	29
「新聞に触れる」ことを通じ、情報と向き合う力を身につける		
～「朝の読書」を活用した情報リテラシーの涵養をテーマに～	群馬県立玉村高等学校	33
2024 年度 NIE 実践報告書		
高崎健康福祉大学高崎高等学校	37	



ごあいさつ

群馬県NIE推進協議会 会長 栗原 幸正
(高崎健康福祉大学人間発達学部 学部長)

令和6年度は、群馬県のNIEに新たな流れを生み出す事ができました。それは実践指定校の中で希望する学校を対象に、児童生徒による、児童生徒のための実践交流会をZoomを用いて開催することができた事です。交流会においては、子どもたちが自分の言葉で、自分たちのNIEに係る日頃の実践を丁寧に発表し、視聴するNIE関係者に大きな感銘を与えてくれました。実践校に配達された各社の新聞を活用して、それぞれの校種やそれぞれの教育環境に合わせて、多様な実践が繰り広げられている様子が、子どもたちの素晴らしいプレゼンテーションで紹介され、群馬県の生き生きとしたNIE活動に触れることができたと言えます。そして、発表後の交流会で、自分たちのNIE活動について交流する子どもたちの姿に、明日の日本への確かな光を見いだすことができたと言っても過言ではないかと思います。

この実践報告書では、交流会に参加した学校を含む9校の令和6年度の実践指定校のNIE充実に向けた実践が掲載されています。小学校3校、中学校3校、義務教育学校1校、高等学校2校からなる令和6年度の実践校の全てが、新聞と児童生徒を出合わせる空間づくりや授業づくりに多様な工夫を凝らしています。子どもたちがいかに新聞を手に取ることができるかと、新聞との出会いに工夫を凝らした学校。また、新聞記事を活用した授業づくりに先進的に取り組んだり、新聞への意見や俳句などの投稿という形で新聞への接点を模索した学校。さらには新聞記事に係るセッションを日常の教育活動に編み込む継続的な活動を生み出した学校など、その取り組みは多彩で、子どもたちにとって学びがいのあるものとなっています。特に多くの学校がNIEにICTを積極的に導入している点が、新たなNIEの世界が開き始めたと言うことができるのでないでしょうか。群馬県のNIEが今後も進化し続けるという確かな息吹と鼓動を感じる事ができる本実践報告書を、ぜひ最後までお読みいただければ幸いです。

本報告書の作成にあたり、これまでご協力いただきました関係新聞各社をはじめ、実践に臨まれた各学校の先生方や児童生徒、そして保護者や地域の皆さん方に、心よりお礼申し上げます。

今後も、次世代を創るNIEの活動がより充実し、各学校の実態に即した教育実践が多様に繰り広げられることを願って卷頭の挨拶とさせていただきます。

「文章の内容を、論理的に読むことができる児童の育成」を目指すためのNIEの活用 ～新聞を活用して語彙力を向上させよう～

千代田町立東小学校

石井 智

(1) 学校としての取り組み

①学校全体の取り組み

昨年度から継続してNIE実践校としての指定を受け、2実践に取り組んできた。

本校の研修テーマである「文章の内容を、論理的に読むことができる児童の育成」を目指す一環として、新聞を授業に効果的に取り入れ、新聞に触れる機会を増やし、新聞記事を読む場面を設定することで、語彙力の向上につなげようと考えた。具体的には、よむYOMUワークシートの活用と、新聞を授業に取り入れた実践の2点である。

1) よむYOMUワークシートの活用

4～6年生は有料版のワークシートを使った。具体的には、隔週火曜日の宿題として児童に課し、翌水曜日の朝学習（朝行事の時間）に答え合わせと解説をするようにした。1～3年生については、無料版のワークシートを学級の実態に応じて活用している。また、昨年に引き続き、ワークシートを保存するためのファイルを全校児童に配付し、学びを振り返れるようにした。

2) 新聞を授業に取り入れた実践

本校では「1人3実践1公開」として、3実践のうち1つは新聞を授業に取り入れた実践を行い、互いに学び合えるようにしている。

②どこに新聞を置き、どのような工夫をしたのか

本校児童は図書室の利用が多いので、図書室内に新聞コーナーを設置した。各社ごとに棚を変えて2ヶ月分を置いておき、誰でも自由に閲覧できるようにした。また、バックナンバーについては、図書室内に保管し、職員が授業等で活用できるようにした。

また、本校は低学年玄関の所に、備え付けのベンチがあるスペースがある。そのテーブルに子ども新聞を置き、自由に閲覧できるようにした。

(2) 実践事例

【1年国語】

「五十音の表を見て、これまでに学んだ平仮名の学習を振り返るとともに、五十音表の基本的な特徴に気づく。」というねらいに向けて、新聞を活用して授業を行った。新聞を活用することで、元々知っていた言葉だけでなく、新たに知る言葉も多くあり、語彙力向上につながると考えた。

ひらがな文字の全てを習得した後ではあるが、1年生の子ども達にとって新聞紙から文字を探すことは、容易なことではなかった。見出しなどの大きい文字から探し始め、記事の小さい文字まで記事を読みながら探し、五十音表を完成することができた。



→ 五十音表が
完成しました

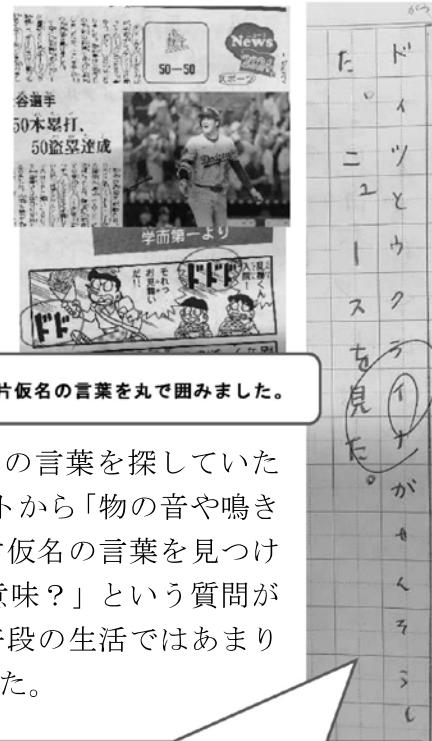


記事を読みながらひらがなを探しました。

【2年国語】

新聞から片仮名で書かれた言葉を探し、種類ごとに分類する活動を通して言語についての理解を深めることにつながるのではないかと考えた。授業の流れは以下のとおりである。

- ①前時の振り返りをし、めあての確認をする。
- ②グループ毎に新聞から片仮名で書いてある言葉を丸で囲み、種類毎（「外国から来た言葉」「外国の国や土地、人の名前」「物の音、動物の鳴き声」）に分類し黒板に書き出す。
- ③それぞれが見つけた言葉がどの種類のものか、グループ毎にクイズを出し合う。
- ④見つけた片仮名の言葉2個以上を使って短文を作り、ペアで読み合う。
- ⑤学習の振り返りをする。



紙面上の片仮名の言葉を丸で囲みました。



最初は見出しや記事から片仮名の言葉を探していたが、たくさん見つけようとイラストから「物の音や鳴き声」を見つけていた児童もいた。片仮名の言葉を見つける中で、「この言葉ってどういう意味？」という質問が出てきた。新聞の活用によって、普段の生活ではあまり使わない言葉に触れることができた。

児童が新聞から見つけた片仮名の言葉を、班ごとにクイズ形式で発表し、どの種類の片仮名か分類分けをしました。

見つけた片仮名の言葉を使って文章を作りました。

【3年国語】

国語「お気に入りの場所、教えます」において、場所の紹介をするときにどのように書くと相手に伝わりやすく書くことができるのか、魅力的に書くことができるのかを捉えるために新聞を用いて授業を行った。

〈内容〉

- ①場所を紹介している複数の新聞記事から、自分が興味を持った新聞記事を一つ選び、読む。
- ②読んだ記事のわかりやすかった部分や、魅力が良く伝わった部分を書く。
- ③伝わりやすいと思った理由を、グループで意見交換し、全体で考えを共有する。
- ④自分で書くときに取り入れたいことや気を付けたいことを書く。
- ⑤学習したことを生かして「お気に入りの場所」について、紹介文を書く。

〈結果〉

場所を紹介するときに効果的な文の書き方を学び取り入れようとする意識が芽生えた。



授業で使った新聞記事



授業の様子

【4年国語】

①国語「思いやりのデザイン」において、文章内容の対比関係を捉えさせる練習として新聞記事を用いた授業を行った。新聞記事には、教科書と同様の文章構造になっていて対比関係を捉えやすい内容のものを選んで使用した。花粉症と食物アレルギーを扱った内容であったが、本学級に食物アレルギー児童がいるため、児童の関心が高く身近に感じられる内容であった。対比の関係を押さえたことで、「思いやりのデザイン」における2種類の案内図の対比関係を理解する手がかりとなつた。

②国語「熟語の意味」で、漢字の組み合わせを手がかりに熟語の意味を考える学習をした。新聞記事の中から熟語を探し、4種類の組み合わせに色分けすることで習熟を図った。児童は、お気に入りの記事を選んで、意欲的に熟語の仲間わけをしていた。

①対比関係の記事



花粉症は、スギやヒノキなど
の植物の花粉が原因となって起
るアレルギー反応です。おも
な症状はくしゃみや鼻水など。
5~9歳の3人に1人が花粉症
という統計もあります。

一方、食物アレルギーは「牛
乳を飲むと体がかゆくなる」な
ど、特定の食べ物が原因で起こ
ります。小学生の20人に1人が
かかっています。体が赤くなっ
たり、せきやじんましんが出た
りします。こうした症状が複数、
短時間で全身に出たり、意識を
失うほど重い症状を起こしたり
することもあります。

花粉症の人は「食物アレルギー
」の症状が出やすいといいま

②熟語の仲間分け用の記事

【5年国語】

地方紙や全国紙の複数の記事を読み比べて自分の気付いたことを紹介する授業を実践した。

図書室にある地方紙と全国紙から、同じ内容を扱っている記事を見つけた。ロイロノートを活用して同じ出来事について書かれた記事を並べて、記事の文章の長さや、写真の大きさの違いに気付くことができた。ロイロノートを使って、お互いに記事を比較して気付いたことを共有し、それをもとに気付いたことを話し合った。



複数の新聞で読み比べ



地方紙と全国紙で内容を確認する。

感想	内容	見出し	新聞名・日付・面
上毛新聞は大きめで書いてあって見やすいなと思った		安達 現役引退	9月12日 上毛新聞
産経新聞は小さく書いてあって見づらいなと思った。 (安達 群馬出身)		オリ安達が 今季で引退	9月12日 産経新聞

記事を比較しながら読み、気付いたことをまとめる

【6年国語】

「文章の構成や展開、文章の種類とその特徴を理解しよう」というねらいに向けて、新聞を活用して授業を行った。教科書での学習の後、実際に新聞記事とインターネット記事で書かれている内容に違いがあるのかを確かめる活動を行った。授業の流れは以下のとおりである。

- ①「インターネットでニュースを読もう（光村図書）」で、見比べるポイントを確認する。
- ②インターネットで興味のある記事を探す。
- ③図書室の新聞コーナーから、②で探した内容と同じ新聞記事を探す。
- ④2つを見比べて、相違点をノートにまとめる。
- ⑤学習の振り返りをする。



《児童の振り返り》

- ・新聞記事を読んでみると、記事の内容が詳しく書かれていたり、関連する内容が書かれていたりすることがわかった。
- ・インターネット記事と新聞記事は、一見同じ内容が書かれているだけだと思ったが、情報の伝え方にそれぞれ工夫があることがわかった。

（3）実践前後の変化、実践の感想、今後の課題

①児童・生徒はどのように変わったか

児童の語彙が増えたかを検証するため、国語の教科書に載っている「ことばのたからばこ」にある言葉について、知っているか・使ったことがあるかを調査し、1学期と3学期で比較した。すると、1学期のシートを見て「なんでこの言葉がわからなかつたんだろう」とつぶやく児童が複数見られた。多くの学年で「知っている・使ったことがある言葉」が多くなっていたことから、語彙力が向上する機会となつたと考える。

②実践者の感想

子ども新聞の提供を受けたことで、低学年児童でも新聞記事に触れることができた。また、実践者が一般紙と子ども新聞を比較し、児童の実態に合つた新聞を選択することができた。

小学生には子ども新聞が合つていると感じる。今後は新聞の活用による、語彙力や表現力の向上が図られるよう、国語に限らず多角的に新聞を活用できるような実践を積み重ねていきたい。

「新聞に慣れ、親しむ」児童の育成

～「授業実践」「NIEタイム」を通して～

千代田町立西小学校

森本 悠策

(1) 学校としての取り組み

①学校全体での取り組み内容

・全校児童に向けた「NIEガイダンス」の実施

4月、2年生以上の児童を対象に、「NIEについて知ろう」と題して、「本校の取り組み」「NIEの有用性」などを児童に理解できるよう、ガイダンスを実施した。以下がスライド資料の一部である。

NIEについて知ろう！
千代田町立西小学校

新聞のよいところって？

- ①情報（じょうほう）をたくさん知ることができる
- ②くわしい説明（せつめい）があり、ニュースの背景（はいけい）がよくわかる。
- ③手元（てもと）にあるため、いつでも読み返すことができる。
- ④インターネットの情報はまちがいがある場合もあるが、新聞の情報は、まちがいがなく、信頼（しんらい）できるものである。

千代田西小学校では…

①NIEタイム（朝行事）

先生たちがおススメする新聞記事を読んだり、感想（かんそう）を書いてもらったりします。

③NIEの授業

いろいろな教科でNIEをとりいれた勉強をします。

新聞にふれると
とてもよいことがあるよ(o^—^o)

①自分の頭がくなる！
…NIEにとりくんでいる学校の児童はテストの点数が高いです！

②世の中のたいせつなことを
ただしく知ることができ、
自分の頭や心の成長につながります！

・「NIEタイム」

毎週金曜日の朝行事を中心に、「NIEタイム」を行っている。教師が児童の興味を引きそうな新聞記事を探し、学年の発達段階に応じた質問を考え、明記したものを「ロイロノート」上で児童が学習するというスタイルである。

全職員で分担の日程を決め、教材を作成している。提供していただいている「新聞」や「子ども新聞」などから記事を引用し、学年の実態に合わせて学習内容を変えながら作成している。付箋紙機能に課題を表示し、ピンを外せばその下の付箋紙に正答が記してある、といったシートである。

・「YOMUYOMUワークシート」の活用

読売新聞社が提供する「YOMUYOMUワークシート」を4～6年生を対象に、朝学習や国語の授業で取り組ませている。

②NIEコーナーの設置（図1）

全校児童が必ず通る場所、ということで児童の目に止まりやすい体育館通路入り口に新聞を置いている。

また、教師用NIEコーナーを印刷室に設けた。児童用に設置した新聞の過去1ヶ月分程度を印刷室に移



図1

動し、授業で使用する時の参考にできるようにした。

また、6年生学年室の一角に、「新聞ラウンジ」を作り、3社（読売、朝日、上毛）の子ども新聞を置いている。

(2) 実践事例

① 実践の具体について

学年	教科	単元名・教材名
1年	国語	かたかなのかたち（かたかなをみつけよう）
2年	生活科	つながる 広がる わたしの生活（町たんけん）
3年	総合	ぼくたち、わたしたちも米づくり名人になろう
4年	国語	見せ方を工夫して書こう 新聞を作ろう
5年	社会	情報産業とわたしたちのくらし
6年	社会	歴史新聞をつくろう（単元末に学習のまとめを新聞形式にする）

② 研究のテーマ

「新聞に慣れ、親しむ」児童の育成
～「授業実践」「NIEタイム」を通して～

③ 学習指導案

【1年国語】：「かたかなのかたち」

【目標】：片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使うことができる。
(知・技(1)ウ)

【学習計画】(全3時間 本時第3時)

第1時	平仮名と形の似ている片仮名や、似た形の片仮名を区別して書く。
第2時	間違えやすい片仮名を練習する。
第3時	片仮名で書く言葉を集める。

【本時の展開】

1 ねらい 新聞の中で使われている片仮名を探し、身の回りにいろいろな片仮名言葉があることに気づけるようにする。

2 展開

主な学習活動	○指導上の留意点 ◆評価項目
1 本時のめあてをつかむ（5分） かたかなでかくことばを見つけよう	○意欲をもって取り組めるよう、画像付きの新聞記事を対象資料とする。
2 新聞記事の中から、片仮名をつかった言葉を探す。（15分）	○複数の児童で活動できるよう座席配置を整える。
3 見つけた片仮名言葉をワークシートにま	○間違えやすい片仮名を板書し、正しい

とめ、クラス全体で共有する。(20分)	文字が書けるよう注意を促す。
4 学習内容の振り返りをする。(5分)	◆本時の発言やワークシートの記述内容から、「身の回りにある片仮名言葉を見分け、正しく書くことができているか」を評価する。(知・技) ○身の回りにある片仮名言葉にこれからも気付けるよう、意欲付けを行う。

【4年国語】 : 見せ方を工夫して書こう「新聞を作ろう」

【目標】 : 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。
(思・判・表B(1)イ)

【学習計画】(全10時間 本時第1時)

第1時	実際の新聞記事を用いて、特徴や工夫を見つける。
第2~6時	見つけた工夫を生かして、グループで新聞を作る。
第7~9時	お互いに読み合い、校正する。
第10時	完成した作品を読み合い、よさを交流する。

【本時の展開】

- ねらい 実際の新聞を見て、読む人の事を考えた新聞の工夫を見つける。
- 展開

主な学習活動	○指導上の留意点 ◆評価項目
1 実際の新聞に目を通し、新聞の特徴に気付く。(25分) 本時のめあて みんなが読みたくなるような新聞のひみつを見つけよう。	○同一日の複数の社の新聞を与え、同じ内容であっても、新聞によって伝え方が違うことに気付けるようにする。 ○教科書に掲載されている新聞記事や実際の新聞を見て、気付いたことを自由に発言するよう促す。
2 本時及び単元のめあてを設定する。(20分) 単元のめあて 記事の見せ方を考え、読む人に分かりやすく伝わる新聞を作ろう。	○新聞について気付いたことをワークシートにメモして、ペア→グループ→全体で交流し、多様な考えがもてるようする。 ○複数の新聞を見て気付いたことから、新聞社の意図する「工夫」につなげ、自分たちの新聞作りについて目的意識と相手意識がもてるようする。 ◆ワークシートの記述内容や発言から「自分たちの新聞づくりに意欲をもち、本単元の学習の見通しをもって取り組もうとしているか」を評価する。(主体態)
3 学習内容の振り返りをする。(5分)	○次時は「どんな新聞をつくるか」について考えることを伝える。



新聞から片仮名を見つけている1年児童



読みたくなる新聞の工夫を探す4年児童



新聞の形式を学び児童が作成した
町たんけん新聞（2年生）

⑤児童にNIEに興味をもたせるための工夫

- ・生活科の学習と結びつけ、学んだことを新聞で伝える目的意識、隣の小学校の児童に伝えるという相手意識をもたせ、新聞制作の必要感を醸成した。（2年）
- ・「みんなが読みたくなる新聞」とはどんなものか学べるよう、まずは3年生が自力で読める「子ども新聞」や4年生が制作した壁新聞を読むことから学習を始めた。（3年）
- ・社会科の学習のまとめに「はがき新聞」を書く活動を行った。まとめの際には、見出しおのつけ方、「編集後記」に見られる事実と意見の分離、図表・挿絵の活用等、実際の新聞から学んだ構成の工夫をとりいれた。（6年）

⑥NIEガイダンスについては、(1)①のとおり。

（3）実践前後の変化、実践の感想、今後の課題

①児童の変容

- ・各学年で新聞を題材に、「自分が読みたくなる工夫」を見つけさせたことで、児童は見出しや写真の効果を主体的に考えることができ、工夫しながら新聞を書くことができた。
- ・「新聞ラウンジ」を設置したことによって、毎日、新聞を手に取る児童がでてきたり、ラウンジに集まり、記事の内容を話題にして盛り上がる様子が見られたりした。

②感想

- ・身近なところに時事的な（新鮮な）情報があると、こちらが読むように促さなくても一定数の児童は新聞を読むことが分かり、今後の指導に生かしたいと考えた。

③反省点や課題となる点

- ・上記の取組をもとに、配達部数が限られる中、主体的に新聞に関わる児童をどのように全校に広げるか、全職員で共有し、取り組んでいきたい。

新聞を活用して考えを広げられる児童の育成

—新聞に親しみ、学びをつなげられる実践を通して—

館林市立第五小学校

川口 舞

1. はじめに

本校は、群馬県東部、館林市の東側に位置する、児童数268名、14学級の小学校である。つつじが岡公園や城沼などがある自然豊かな地域である。また、コミュニティスクールとの連携で、学校、保護者、地域一体となって行う学校行事が数多くある。今年度は、NIE 実践校に初めて挑戦し、新聞を活用して、児童の考えが広げられるように実践を行ってきた。

2. 基本的な立場・考え方

新聞を教材の宝庫として考え、教育活動を充実させる手段として、可能性を伸ばしていくものとして活用していく。ただ読むだけではなく、新聞にかかわる人・もの・ことを対象にして、広く捉えていく。授業だけではなく、新聞にかかわる機会を増やして、新聞をより身近に感じるものになるようにしていく。学校、保護者、地域など、児童を取り巻く環境に、新聞を組み込んでいけるように、日常生活の中でふれあう時間を増やしていく。

3. 実践の概要

(1) こども新聞の活用と新聞コーナーの設置

NIE 実践指定校に認定されると、実践者の数に応じて、朝日、毎日、読売、日経、東京、産経、上毛各社の新聞を無料で購読することができる。本校では、その際に、銘柄をこども新聞にして、1～3年生、4～6年生と対象を分けて新聞コーナーを設置した。場所は、多くの児童が利用する図書室前と高学年の教室前と2箇所に設置した。児童自身が読みたいと思う記事を文字の量に抵抗感なく、ふれることができるようにした。休み時間や授業など、さまざまな機会で活用できるようになった。図書室には、今までのバックナンバーがおいてあり、そこから読みたい記事を探すこともできる。



1～3年生：新聞コーナー



4～6年：こども新聞コーナー



新聞のバックナンバー

また、国語「新聞を読もう」の授業では、初めてじっくりと新聞を読むという児童もいたため、クイズ形式にして、新聞をよく見る授業を行った。さらに同じ日の同じ内容の記事を別の新聞社同士で読み比べるということを行った。新聞によって取り上げる記事の見出し、大きさ、写真など、多くの違いを見つけることができ、なぜそのような違いが生まれるのかを児童同士で話し合うことができた。新聞の記事の書かれ方に興味をもったところで、記事の内容に注目して、児童自身の興味がある記事を探した。そして、なぜそう思ったのか理由も考え、交流する場を設けた。

(2) 投稿

本校では、週末作文、週末俳句に取り組んでいる。毎回、作文のテーマとなるものを提示し、条件を設けて書いている。次ページの用紙が、課題を児童に出す際に配っていたものだ。条件は毎回

ほぼ変わらないので、慣れてくると、この条件が当たり前のようになり、文章で表現することが楽しくなってくるようだ。また、書くためのヒントに沿って、文章の構成を考える児童も多い。作文ができるようになったことを授業の中でも活用し、文章を書くことに抵抗感がなくなつたことは、新聞をきっかけにして、考えを広げ、自分の考えを表現したいと思う児童が増えたといえる。

同じように、俳句についても同様に、繰り返し作成に取り組んだ。その活動をより深い内容にするために、四季ごとにゲストティーチャーをお呼びして、句会を催した。最初の時にはどのようにしてたった十七音の中に考えを入れるのか、迷う児童が多かったが、続けていくことで、どんどん言葉の工夫が見られるようになった。句会では、名前をふせて投票をする。そのため、書かれた俳句を読んで、どんなことを感じるか、自分自身で考えなくてはならない。そのため、お互いの俳句を見合う目もこえていき、どんな工夫がされていてどのような想像が広がるのか、理由を言える児童も増えていった。優秀賞や佳作に選ばれるために、言葉選びを何度も再考している様子に驚いた。

さらに、このような学習活動を行い、新聞への投稿を続けた。自分の書いた作文や俳句が新聞に掲載される教育的効果は、非常に大きい。子どもたちの大きな自信になり、自己肯定感を高め、学習意欲の向上につながる。また、保護者や祖父母等の喜びを通して、会話のきっかけ作りにもなる。家族の中でもその話題で話がはずむ。

↓ゲストティーチャーを呼んでの俳句の句会の様子。

九月二十七日（金）の作文課題 ↓ 九月三十日月に作文ノートで提出

【条件】

1. 宇数は、四〇〇字程度（ページ用紙を一ページとして）
2. 書くときに、決まつた用紙（下図を参考）
3. 原稿用紙の使い方のルールを守る。
4. 三行以上、段落作成していわば字を書く。
5. 何か日本語など（実験など）をいねる。

【書くためのヒント・書く内容】

◎タイムマシンがあつたら、未来と過去どちらに行きたいですか？
どうなことをしてみたいですか？
未来と過去選んだ理由を書きましょう。

現在と比べて、できるだけ具体的に、分かりやすく伝えなさいよ。

今の自分の気持ちなどはにして伝えてみましょ。

【読んだ人が、興味がわくような、具体的のある文章を目指して頑張りましょう。】

文章の構成、書く内容を、
よく整理してから、
スッキリと読みやすい
文章をひがけてみよう。

【用紙】

1 マス空けて、ここから
本文を書き始める。

名前は、
ココに
書く。

年齢を、
ココに
書く。

【書き方】

名前は、
ココに
書く。



(3) 出前授業

本校では、子どもたちの学習をより充実したものになるよう、専門家の力を活用する出前授業を積極的に取り入れている。また、5年生は社会科見学で上毛新聞印刷センターに行くことが決まっていた。そこで、上毛新聞社の記者の方に出前授業をしていただいた。上毛新聞社の歴史から、新聞が出来上がるまでの過程を興味深く聞くことができた。以下がその時の授業の様子である。



↓以下の新聞は実際に、上毛新聞の「風っ子」11月24日号に載った記事である。

今回の出前授業では、紙媒体の新聞とパソコン上で見られる新聞とを見比べることもした。新聞で一面が一度に見られる良さと見たいところを拡大して見られる良さと両方の利点を見つけていた。そ

して、自分の用途に応じて使っていきたいという声もあがっていた。さまざまな視点から新聞について考えられたことが、大きな収穫で、その後の社会科見学でも、質問の手がたくさん挙がっていた。子どもたちの学習意欲向上につながった。



←実際に印刷センターの機械を目の前にして、疑問がたくさん出てきました。自分の目で確かめられました。

(4) 「新聞検定」への参加

今年初めて、読売新聞の「新聞検定」に参加した。読売こども新聞を読み、マークシートで問題に答えるものだ。新聞の見出し、記事の書かれ方、グラフの見方、新聞のすみずみまで見ながら挑戦した。時間内に解くためには、どのように読んでいくとよいのか、考える良い機会になった。しかし、時間内にできなくても、気になって後から確かめている姿を多く見た。このように、新聞の内容に興味・関心をもち、もっと知りたいという意欲につながったことは、自分の考えを広げるきっかけになったといえる。

4. 実践の感想と今後の課題

実践を通して、新聞を教材と見るのではなく、何か新しいことを知ることができる媒体として、子どもたちの中に浸透していったことが大きい。

新聞を手に取る機会が増えるだけで、多くの文章にふれ、そのたびに自分の頭で考え、友と意見を交換し、考えを広げ、学びを自ら切り拓いていく力がついていった。

この新聞を教育活動の中で活かしていくことの利点をさらに多くの先生方に実感してほしいと考える。また、多くの学校行事の中で、新聞などの取材を受けることで、瞬時に自分の感想を伝えることもできるようになった。そして改めて、地域の文化財の大切さにも気付くことにつながった。下記の写真は、地域のつつじが岡公園での子房摘みで取材を受けている時の光景だ。(下記左の写真)

さまざまな経験を積むことで、学びが広がり、自分自身の言葉も増えていき、「名言集」を作るまでになった。一年間でかなりの数になった。

(右の写真→)

今後の課題としては、より多くの児童に下記の写真のように、新聞を読む機会を継続的に増やしていくことだ。



教育活動の充実を図るためのNIEの活用

～新聞に慣れる、触れる、親しむ、活動を通して～

千代田町立千代田中学校 早川 潤 松島 千夏

(1) 学校としての取り組み

○授業での活用

昨年度から NIE 実践指定校となり、2年目を迎えた。昨年度の反省として新聞の活用が国語科に限定されてしまったという意見があった。その反省を生かし、年度当初に国語科以外の教科でも新聞を活用した授業実践を全職員に投げかけ、NIE の実践をスタートさせた。今年度は各学年で1回以上は新聞を活用した授業を行うことができ、国語だけでなく、社会、美術、数学等、様々な教科の授業で新聞を活用した授業を行うことができた。(資料1、2)

明朝体

- ・縦画が太く、横画が細い
 - ・三角形の山の形をしたウロコがある
 - ・はねたり、はらったり、筆で書いた漢字を様式化してできた書体。
 - ・読む文字の代表とされている



ゴシック体

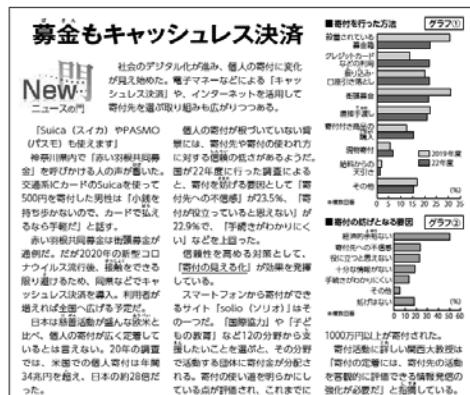
- ・ウロコがない
 - ・明快で力強く、遠くからよく見えるため、見る文字の代表とされる。
 - ・基本的には横画と縦画が、ほぼ同じ幅の太さでつくれていてる。

【資料1 美術 書体の説明の際に新聞を活用】

また、総合的な学習の時間で1、2年生は新聞作成を行った。1年生は『職業調べ』後、2年生は『職場体験』後に学んだ内容を新聞にまとめ、それを基に発表する機会を設けた。新聞の書き方、構成を学ぶことからスタートし、1人1枚の新聞を書き上げた。完成した新聞は校内に掲示し様々な生徒が自由に読むことができるよう掲示した。生徒からは「新聞を作る大変さや文字で内容を伝える大切さがわかった。」「普段は新聞に触れる機会がないが、友人の新聞を見て改めて新聞の魅力がわかった」などの感想が挙げられた。(写真1、2)



【写真 1 2年生 新聞作成の様子】



【資料2 社会 新紙幣発行時に活用した よむYOMUワークシートの記事】



【写真2 1年生 新聞発表の様子】

○朝学習での活用

毎週水曜日の朝学習の時間に「NIE タイム」を設定した。全クラスで新聞記事を基にしたワークシート『よむ YOMU ワークシート』に取り組む時間を設けた。ワークシートはタブレットで配信し、10分間で解答し、丸付けをして提出させた。また、昨年度の反省として、問題が難しいという生徒の声もあったため、今年度は小学生向けの問題も解くことができるよう準備をした。年間30回行い、さまざまなジャンルの新聞記事に触れることで、時事問題に目を通すきっかけとなった。年度末に行った生徒向けのアンケートでは、ワークシートを行ってきたことで「文章を読むのが速くなった」「読解力がついた」「様々なニュースに触れることができ、世の中のことに関心をもつきっかけになった」などの感想が挙げられた。(写真3、4)



【写真3 NIEタイムの様子】

○新聞コーナーの設置

NIE実践校として指定を受け、読売、朝日、毎日、東京、日経、上毛、産経の7紙を配達していただいた。配達された新聞は生徒の往来が多い、2・3年生の玄関前と2階の廊下に設置した。(写真5、6)



【写真5 1階NIEコーナーの様子】

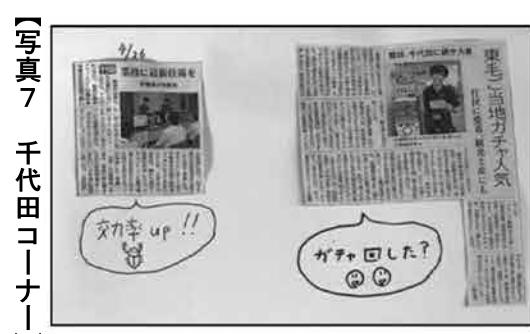


【写真4 よむYOMUワークシート】



【写真6 2階NIEコーナーの様子】

また、今年度より1階の新聞コーナーに千代田町の記事を紹介するコーナーを設置した。上毛新聞で紹介された千代田町の記事を切り抜き、生徒にコメントを書かせた。自分たちの知っている場所や内容が取り上げられているため、熱心に記事に目を通す姿も見られた。(写真7)



(2) 実践事例

【国語科】3年生 教材名：「報道文を比較して読もう」

【ねらい】複数の新聞社の記事を比較して評価する活動を通して、表現や新聞社の視点の違いによって読者に与える印象の違いに気づき、情報の信頼性を判断できるようにする。

主な学習活動	指導上の留意点
<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。(7分)</p> <p>くめあて> 複数の新聞社を比較して、何がどのように違うのか、評価しよう。</p>	<p>○前時に何を学習したのか、想起させるために生徒たちがまとめた視点をPowerPointで提示する。</p> <p>○本時の流れをイメージしやすくするために、新聞記事を生徒に提示し、3社を比較することを確認させ、めあてを生徒から引き出す。</p>
<p>2 ロイロノートをもとに個別に報道文を比較する。(13分)</p> <p>「どのような着眼点で比較していくべきでしょうか。」</p>	<p>○比較が難しい生徒でも取り組むことができるよう、伝えたいことを整理させる。</p> <p>○生徒がより自分の考えを表現できるように、前時に書いたカードを振り返りながら、学習に臨むように助言する。</p>
<p>3 グループになって集団で報道文を比較する。(20分)</p> <p>「他の生徒はどのような視点で評価しているのか、お互いの着眼点を説明し合おう。」</p>	<p>○カードを見せ合うのではなく、他の生徒との着眼点の違いを自分の言葉で説明できるように助言する。</p> <p>○他の生徒の気づきと自分の気づきを区別できるようにカードに赤で記入するように促す。</p>
<p>4 本時のめあてに対するまとめを確認し、学習内容を振り返る。(10分)</p> <p>くまとめ・振り返り> 1つだけのメディアや報道文、論説だと自分の考えに偏りがでてしまう。複数のメディアを駆使して客観的に比較し、様々な考え方を材料にして自分で判断していく。</p>	<p>○前時での学びから本時でどのようなことを身につけることができたか自分の言葉で表現できるように助言し、学習の様子を称賛する。</p>

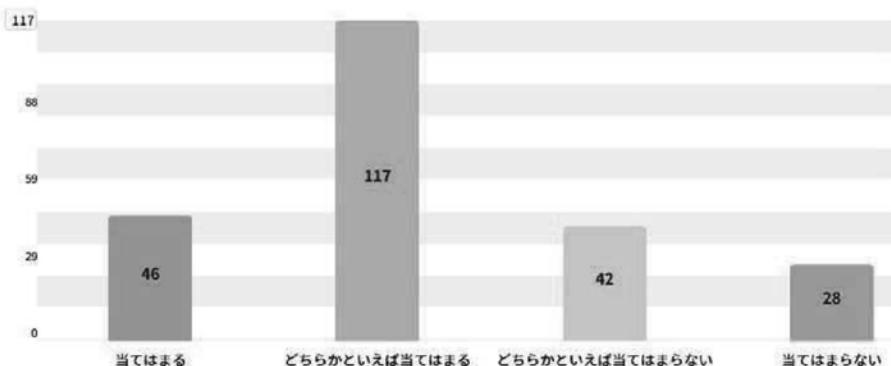
	記事A	記事B	着眼点	気づいたこと 考えたこと
見出し	東京2020へ まず10万人募集 ボランティア「史上 最大」	五輪ボランティア議論尽きぬ中事 集スタート 目標11万人 期待も批評 ロンドン・リオ 応募20万人 越え	受け取る印象は どう違うか	記事Aではポジティブ な感じに捉えられる けど、記事Bは裏側の ことまでが知れる。
リード文	・募集人数は大会 史上最大規模の 約11万に上る	世界最大のスポーツイベ ントに開われ機会があ ると期待の声が上がる一方で「やりがい奪取だ」という批判の声も上が	使われている言葉な どに着目し、書き手 が何を伝えようとして いるかを読み取る	記事Aでは達成でき たことを具体的に載せてい るけれど、記事Bでは課 題点も記載されている
本文	・大学にも協力を呼び かけ、試験や授業の 日程をずらすなどの 工夫もされている。	いろんな人の参加をしたい という意見や主張が述べら れている。しかし中では 「ブラックボランティア」と いうマイナスな意見も上 がっている。	・どのような事実 を報じているか ・どんな立場から 述べられているか	記事Aでは多くのことが 多く書かれていてポジティブに 捉えることができる。記事B では課題点も上がっている ため説得力のある新聞に感 じる
写真	・女性が楽しそうに行 っているため、ボラン ティアが楽しそう！と いう印象を受ける。	ボランティアの参加 を真剣に呼びかけて いたり、真剣に対談 している様子	・どんな場面を写 したものか ・その写真を取り 上げた意図	記事Aでは女性が笑顔で 配っているため楽しさ が伝わってくるけれど、 記事Bでは笑顔がないため 深刻な感じが伝わる



(3) 実践前後の変化、実践の感想、今後の課題

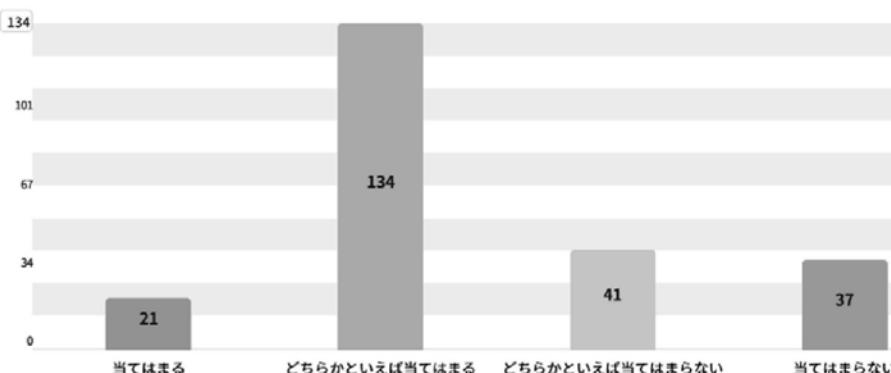
①実践前後の変化（2月に全校生徒を対象に行ったアンケートより）

Q 1、朝の NIE タイムにより、文章を読むのが速くなった



約 7 割の生徒が、NIE タイムにより文章を読むのが速くなったと回答した。生徒の感想にも「テストの際に、初めて読む文章など速く読めるようになった」という意見が挙げられた。

Q 2、朝の NIE タイムにより、文章のキーワードを意識しながら読むようになった



約 7 割の生徒がキーワードを意識しながら読むようになったと回答した。実際にキーワードを丸で囲んだり、線を引いたりしながら読む生徒も増えた。

②感想並びに今後の課題

今年度 NIE 実践指定校 2 年目ということで、昨年度の実践を継続しつつ、少しでも新聞に触れ、慣れ親しむ機会を増やせるようにと模索した 1 年であった。今年度新設した千代田町の記事の紹介コーナーでは、生徒が千代田町の記事にコメントを書く際に、友人と楽しそうにコメントを考え、改めて郷土の魅力や良さを再発見する様子が見られた。また、そのコーナーに立ち寄り目を輝かせながら記事を読む生徒も見られた。普段新聞に触れる機会の少ない生徒たちにとって、自分たちの知っている地元の記事が紹介されることに対して喜びを感じている生徒が多く、郷土の魅力を再発見する上で、よい実践であったように感じる。また、様々な教科の授業で新聞に触れる機会を設けることができたことにより、生徒も新聞に触れる機会ができ、新聞の良さや新聞に興味をもつ生徒が増えた。

課題としては、昨年度より行っている新聞コーナーのマンネリ化や NIE タイムの問題の難易度が挙げられる。新聞コーナーは複数あるが、休み時間に新聞を手に取って読む生徒はまばらである。また、NIE タイムの難易度が文章を読むことが苦手な生徒にとっては難しいという声も聞かれた。今年度の課題を改善しながら、今後も生徒が新聞に触れ、慣れ、親しむ機会を設定していきたい。

最後に、NIE 実践指定校としての活動を通して、改めて新聞の魅力や新聞の教育効果の高さを実感することができた。また、毎日届く新聞の 1 つ 1 つの記事に新聞社の方々の熱い想いが込められていることを実感する毎日であった。今後も可能な限り効果的な NIE の実践を継続し、様々な場面で新聞を活用しながら、生徒と共にワクワクする学校生活を創りあげていきたい。

中学校の教育活動におけるNIEの活用

高山村立高山中学校

1 新聞コーナーの設置

新聞をよりたくさんの生徒に触れてもらいたいと考え、新聞コーナーを設置した。設置場所は、校舎一階の集会などで使用している「ひろば」である。設置場所を「ひろば」にした理由は、「ひろば」が全校生徒の毎朝通る場所であり、より生徒の目にとまる場所だからだ。

新聞はそれぞれの新聞社ごとに整理され、毎朝、新しいものが前面に置かれるようにした。また、入試の面接資料、作文の資料として活用できるよう、購読の時期を3年生の入試前指導ができるよう申込をした。

成果：授業や学級活動で新聞を活用する場面が増えた。

課題：個人的に新聞コーナーを利用する生徒が少なく、新聞コーナーを設置した目的を考えると、もう少し設置方法や啓発の方法を工夫する必要があった。



2 新聞を活用した教科の授業実践

单元名：情報の集め方を知ろう～新聞のよさって何？～

学年：第1学年 教科：国語

目標

新聞の良さを知り、それを体験する活動を通して、情報を多面的・多角的に収集しようとする意識をもつ。

評価の視点

新聞の良さを理解したうえで、新聞に興味をもち、今後の生活に活かそうとしている。

授業計画

時	学習活動
1	<ul style="list-style-type: none">・情報を集めるものをたくさん挙げさせる。・新聞の特徴を考え、その中で良さを発表させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">单元の課題 新聞の特徴を知り、その「良さ」を体験しよう。</div>

2	・新聞を「切って貼ったりすることで、加工し、保存ができる」という良さを体験するために、各自が興味をもった記事でスクラップシートを作成する。
3	・「同じ記事でも新聞社によって違うまとめられ方をしているので、複数の記事を見ることで情報を多面的・多角的に収集することができる」という良さを体験するために、教師が選んだ記事を見比べ、比較する。 ・単元の振り返りをする。

成果：新聞を活用することで、今までの生徒の「調べ学習」＝「インターネット」という考えが払拭できた。また、情報としての新聞の安全性を伝えることができた。生徒の感想の中にも「家でも新聞を読んでみたい」という新聞に対し肯定的な感想が多数見られた。

課題：4ヶ月という期間で、同じ出来



事の記事を取り扱っている新聞を探すのが困難だった。また、見つけても中学1年生には、難しい内容が多く、記事の違いを見つけるという活動は、2～3学年で取り扱った方が良いと感じた。

3 新聞を活用した学級での実践

中学3年生の高校入試に向けて自分の考えを書く練習や面接で気になるニュースなどを答える練習をするために、新聞記事を読んで自分の考えを書く活動を行った。9月頃から朝の時間の15分を活用し、決められた時間の中で記事を読み、それに対する自分の考えを書き、担任による添削とお手本となる生徒の感想用紙を教室掲示した。

生徒の感想

- ・長文に対する抵抗感がなくなった。
- ・新聞を読んで、ニュースを読む機会が増えた。
- ・入試の国語の問題で感想を書くときにどうしようか少し焦ったが、新聞を読んでいたので



しっかり書くことができた。

・実力テストでも国語の問題を解ききれなかったが、読むことに慣れたから入試ではしっかり解き始めた。

・感想を書くことが苦手だったが、自信がついた。

成果

・生徒の感想からも、長い文章を読むことへの抵抗感が薄れた。

・新聞記事を活用したことにより、タイムリーな話題が多く生徒が意欲的に取り組んだ。

・時事問題に興味関心を持つ生徒が増えた。

主体的に学びに向かう生徒の育成

～新聞記事を活用して、自らの考えをもち、比較し深める～

沼田市立薄根中学校 佐藤 尚樹

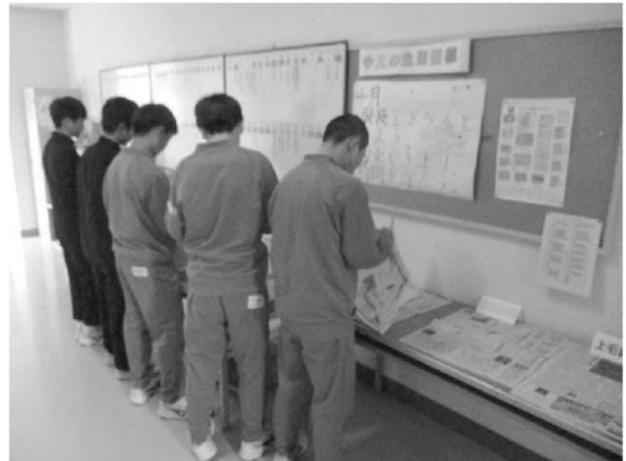
1 実践の概要

本校は、NIE 実践校として指定を受け、1 年目の実践を行ってきた。

- (1) 技術科での実践
- (2) 社会科での実践

2 新聞の置き場と整理の方法

新聞は 9 月～12 月までの間、2 階渡り廊下の一角に閲覧コーナーを設けて毎日 7 社の新聞を配置した。見出しが見えるよう新聞社ごとに置き、群馬関連の記事や、中学生が関心をもてるような記事は赤枠で囲み、同じ事柄を扱った記事は緑の枠で囲み比較できるようにし、興味感心がもてるよう工夫した。また、ホワイトボードを活用し、今日のニュースのポイントを定期的に更新し、活用した。



3 実践内容

(1) 授業での活用

①単元名「エネルギー変換の技術の原理・法則と仕組み」 エネルギー変換の技術

②単元の目標

エネルギー変換に関する基礎的・基本的な知識を習得するとともに、エネルギー変換に関する技術が社会や環境に果たす役割と影響について理解を深め、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けてエネルギーに関する技術を適切かつ誠実に評価し活用する。

③指導方針について

○国内外のエネルギー問題、社会問題、環境問題への興味を高め、主体的に学習に向かわせるために、新聞記事を活用したり、新聞社の編集委員との連携を図ったりする。

○調べたことをもとに話し合いをする場面において、生徒たちの考えが一方に偏ってしまった場合に、教師や外部講師が書籍や新聞等の資料を紹介し、多様な視点で話し合いが深まるように支援する。

④本時の学習

(1) ねらい

今までの学習を振り返り、新聞記事・書籍等の資料や外部講師の話をもとに安全面・安定供給面環境面・経済面の視点で見極め 2030 年の日本の発電電源構成（エネルギー・ミックス）を考える。

(2) 展開 ●予想される生徒の反応

学習活動	時間	指導上の留意点及び支援
<p>1. 前時までの活動を振り返る。</p> <p>●電気エネルギーが光エネルギーに変換された。</p> <p>●白熱電球は大部分が熱に変換され、損失が大きい。つまりエネルギー変換効率が低い。</p> <p>2. 本時の学習課題を確認する。</p> <p>くめあて> 持続可能な社会の構築のためのエネルギー ミックス（発電電源構成割合）について考えよう。</p>	5分	<p>○今までの学習を振り返らせるために、照明機器の実験の様子を記録した写真・実験器具等を提示する。</p> <p>○社会からの要求、生産から使用・廃棄までの安全性、出力、変換の効率、環境への負荷や省エネルギー、経済性に着目し、発電電源構成を再度考えることを伝える。</p>
<p>3. 社会情勢の影響によるエネルギー価格高騰などの経済面での課題や万が一の事故が発生した場合の被害の深刻さなどの環境面・経済面・社会面での課題について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> CO₂排出量を抑えることが喫緊の課題 再生可能エネルギーは発電量が気象条件に左右され、安定供給面に不安がある。停電のリスクがある。 調整電源としての火力発電の必要性 世界情勢によりエネルギー価格が高騰 原子力発電所は事故が起きると被害が大きい 	15分	<p>○最新のデータや資料を提示し、エネルギー価格高騰など先の読めない世界情勢、万が一の事故が発生した場合の心身の健康被害や莫大な損害賠償などの影響について、問題提起する。</p> <p>○各発電方式のプラス面・マイナス面を理解できるよう討論形式で説明し、正解はなく、最善策を考えることを促す。</p> <p>○ライフサイクルアセスメント（教科書P.193）を説明することで、資源採取・製造・輸送・使用・廃棄など全ての段階を通して評価することを促す。</p>
<p>4. これまでの学習で調べた発電方式の長所・短所をもとに班ごとに発電電源構成を考える。</p> <p>●火力発電は、ベースロード電源として安定供給のために必要な電源だ。</p> <p>●水力発電は、発電所建設時に環境面への影響が大きい。</p> <p>●太陽光発電は使用時には環境負荷が少ないが、パネル製造時と廃棄時に環境面への影響もある。</p>	25分	<p>○学習者用端末を用い、班ごとに発表する。（各班1分の発表、全3班）</p>

5. 本時の学習課題を確認し、学習の振り返りとして自分なりにまとめる（個人） ●選挙権を得たときに、エネルギー政策について、政党を選ぶ時に役立ちそうだ。	5分	○今後の生活において、エネルギー問題について自分の意見・意思を持てるよう今後も学んでいく必要があることを伝える。 ○感想を学習者用端末に記述させる。
---	----	---

【評価項目】（評価の観点）

- 安全面・安定供給面・環境面・経済面の観点から持続可能な発電電源構成を考えることができる。

⑤成果と課題

〈成果〉

- ・エネルギーMixについてICTを利用し視覚的に示すことで説明する時間の短縮や充実を図ることができた。
- ・思考を可視化するツール（新聞記事の切り抜き、スライド等）を多用することで、生徒の思考を可視化することができた。
- ・外部講師（エネルギー関連企業、自然保護協会、新聞編集者科学担当）を活用しながら授業を行うことで、生徒が学習内容について深く学ぶことができた。



（2）社会科での実践

①単元名 国の政治の仕組み

②教材の目標

国会の仕組み、法律や予算ができるまでの過程、衆議院の優越について、衆議院選挙やその後の内閣総理大臣の指名の様子についての新聞記事を活用することで、生徒達が国の政治の仕組みについて理解を深められるようにする。

③本時の学習

衆議院選挙告示についての記事を元に、3つのテーマについて各政党の掲げる政党公約を比較する。

④成果と課題

〈成果〉

- ・情報を集めるために数社の新聞を読んだ。
- ・「今」起こっている出来事について扱っているので生徒の意欲が高まった。

〈課題〉

- ・新聞社によって切り取る角度が大きく異なるテーマもあり、情報を拾えないこともあった。
- ・表現が難しく、低位の生徒にとっては読み取りが困難なこともあった。

4 感想と今後の課題

〈成果〉

・「今日のニュースのポイント」を生徒が教えてくれることがあった

・教員が新聞を読み、授業や短学活等で活用する姿が見られた。

・生徒との会話の中で時事ニュースについて話す機会が増えた。

〈課題〉

・新聞を読むきっかけを与えることはできてきているが、多くの生徒が自ら新聞を手に取る段階に至っていない。

・教員主導の活用だけでなく、生徒主体の活用実践を考えていきたい。



交流し、広い視野をもつためのNIEの活用

～授業での活用と作品投稿、NIEタイムを通して～

太田市立北の杜学園

小須田美枝子

1. はじめに

本校は、太田市の中心部、金山の麓に立地する開校4年目の義務教育学校である。1年生から9年生まで全校児童生徒792名（令和6年5月1日）が一つの学び舎で生活し、9年間を見通した特色ある教育活動を展開している。特に、異年齢による交流の機会を意図的、計画的に取り入れ、人間関係力や社会性を育むことを基本方針の一つに挙げている。その基礎を培うために、相手の考えを認めたり自らの考えを表現したりする一端として、新聞を活用し、視野を広げる良い機会にしたいと考え、NIE実践指定校として取り組んで3年目である。

2. 学校としての取り組み

（1）学校全体での取り組み内容

身の回りの出来事に関心をもち、将来を展望できる広い視野と深い思考を育てるツールとして新聞を活用してきた3年目の今年は、常時活動として取り組んできた作品の投稿をより充実させ様々な学年で取り組むとともに、授業でもより多くの学年で活用したいと考えた。また、今年度は新たなイベントとして、令和7年1月7日に、オンラインによる「群馬県NIE実践校交流会」が開催され、本校もこれに参加した。当日実践発表する児童は、新聞への投稿の多い6年生の中で進んで創作している児童から選んだ。彼らは、自らを「NIE伝え隊」と命名し、積極的に取材や編集に取り組み、発表原稿を作り上げた。そこで、この発表原稿を元に一年を振り返ることとする。

（2）どこに置き、どのような工夫をしたか

北の杜学園では、図書室のことをメディアセンターと呼んでいる。場所は1階にあり、明るく広くて蔵書が多く、どの学年も利用しやすいとても恵まれた環境である。メディアセンター内には、新聞を置く場所を設けてあり、NIEの中心的な場所になっている。また、メディアセンター前の廊下に、新聞に掲載された作品を掲示したり、各社の新聞を手に取って読んだりできる場所を設置し、『NIEストリート』と命名した。また今年度は、新聞を近くで手に取りやすいようにと、各階の廊下に新聞を置く場所を設置した。これにより、新聞を気軽に手に取ったり読んだりする光景が見られ効果的であった。

3. 実践事例

（1）授業での活用

北の杜学園では、各学年で国語や社会、総合的な学習の時間などを中心に、授業の中に新聞を取り入れ、作成したり活用したりしている。

写真1:NIEストリート



写真2:2年生作成の壁新聞



① 5年生

実施時期	5月中旬
教科／単元名	国語科：新聞を読もう／「情報ノート」を作ろう
内 容	新聞の構成を知り、内容に着目して、伝えたい内容によって同じニュースでも切り口が違うことを知る。また、興味ある記事を読んで、自分の考えをまとめる。
手だて	・単元の導入として、上毛新聞NIE担当の記者に出前授業をしていただいた。
成 果	・講師の話を児童は興味津々で聞いていた。 ・当日の新聞を児童全員分用意していただき、同じ紙面を見比べてみられた。 ・この後、授業で自分が気に入った記事を一つ選び、それについて感想を書く活動をした。手元に新聞があるので、どの子も意欲的にとり組んでいた。

② 2年生

実施時期	11月～12月
教科／単元名	生活科／みんなでつかうまちのしせつ
内 容	町探検で見学した「太田市美術館図書館」と「太田市社会教育総合センター」について見学してわかったことを新聞かポスターにまとめた。
手だて	・新聞の形の例を提示して、班で協力して壁新聞を作成させた。 ・新聞名を決め、模造紙に各自が書いた記事を貼り、空いたスペースに写真を貼ったり、イラストを描いたりした。 ・見出しは一番伝えたいことを目立つように書くこと、作った感想を編集後記に書くことなどを確認した。
成 果	・見本例を提示することで、それぞれの班で協力して取り組めた。 ・新聞の構成の基礎について、楽しみながら学べた。 ・できあがった壁新聞を2通路に掲示し、他学年にも読んでもらえた。また、学校公開で保護者に向けて発表できた。

③ 4年生

実施時期	11月
教科／単元名	国語科／作ろう学級新聞
内 容	校外学習で訪れた施設を紹介する内容を新聞にまとめた。
手だて	・新聞を書くことを事前に伝えたので、当日熱心にメモをとったり絵を書き留めたりしていた。 ・各自作成する際、実践校なので配布される子供新聞の形式やみだしなど参考にしていた。
成 果	・実際の新聞が手元にあるので、枠や割り付けの参考にしていた。 ・新聞作りに高い意欲を示していた。

④ 4年生へのインタビューより (Q=NIE伝え隊 (6年児童) / A=4年児童)

Q: 何の授業で作ったか？

A: 国語の「作ろう学級新聞」の授業で作った。

Q: テーマは何か？

A: 遠足で行った「群馬県庁」と「少年科学館」で見学したことをまとめた。

Q：工夫した点は？

A：見出しを目立たせたり、絵や4コマ漫画を入れたりした。

Q：実際の新聞を参考にしたところは？

A：先生が用意してくれた新聞や学校に届く子ども新聞から、見出しや割り付けを参考にした。

※広め隊員の感想

実際に作成した新聞を見せてくれたが、とてもしっかりとした構成で読みやすい新聞に仕上がっていった。

写真3:4年生作成の見学新聞



⑤ 7年生

実施時期	通年
教科／単元名	帰りの会で新聞記事を発表
内 容	興味のある新聞記事を読み、その感想を発表する。
手立て	<ul style="list-style-type: none">新聞を複数用意し、多くの情報から興味のあるものを探せるようにした。毎日行うことで、聞く側も様々な情報に触れられるようにした。
成 果	<ul style="list-style-type: none">SNSなどと違い、多くの情報に触れることで、生徒が興味をもつジャンルの幅が広がった。書いた文は、NIEタイムで放送したり新聞に投稿したりした。

⑥ 7年生へのインタビュー（Q=NIE伝え隊（6年児童）／A=7年生徒）

Q：どんな場面で新聞を活用しているか？

A：帰りの会で、毎日日直が1つ新聞記事を選び、それを読んでの感想を発表している。

Q：1学期から継続して変化はあったか？

A：国語が前より好きになった

Q：新聞について、他の学年に伝えたいことは？

A：今は、SNSが多く、新聞に触れる機会が少ないが、いろいろな記事があるのでぜひ手に取つて読んでみてほしい。

※広め隊員の感想

取り上げる記事がいろいろあって、毎日違う記事に触れるので、クラスみんなの意識が高くなっているようだ。

写真4:7年生への伝え隊のインタビュー



（2）新聞への投稿

昨年度に引き続き、自分の思いを形に表す方法として俳句や短歌、詩、作文の創作を奨励している。具体的には、投句用紙を職員室に置いておき、各教員が自由に持っていく。作品は、4年生までは各担任が投句BOXに入れる。

このBOXは、5年生以上のフロアにも置いてあり、自由に用紙を持って行くことができ、作品は自分で投句ボックスに入れる。これまで前半課程の児童の投稿が多かったが、その児童が進級し後半課程にも投句箱がほしいと生徒から要望が出たため、今年

写真5:各階に設置した投句箱



度は後期課程のフロアにも投句箱を設置した。

6年生は、テストが終わって空いている時間や自主学習などで書いている。低学年では、授業で創作したものを投稿することが多い。作品は、上毛新聞の「ジュニア俳壇」「青春短歌」「ジュニア詩壇」に投稿している。

これまで、5、6年が投稿の中心であったが、今年度は、学校全体に渡って投稿が増え、年間で俳句5句、短歌5首以上掲載された児童生徒も昨年より4名増えた。

中でも新聞一面の「朝の一句」コーナーに写真入りで掲載された児童が、昨年よりさらに増えた。新聞に掲載された作品は、担当教師がクラスで発表して新聞をコピーし、入選者に渡しているまた、NIEストリートに掲示するとともに、昼の放送のNIEタイムで発表している。

(3) NIEタイム

北の杜学園では、毎週金曜日に昼の放送で、上毛新聞に掲載された俳句や短歌、作文などの作品や北の杜学園が取り上げられた新聞記事などを全校児童生徒へ紹介している。

4. 実践の感想と今後の課題

NIE伝え隊児童（6年児童4名）がオンラインの「実践交流会」の最後の感想で述べた言葉が、そのまま今年度の成果といえると実感したので、以下に報告する。

児童1：今回まとめてみて、北の杜学園ではたくさん新聞を活用している事が分かった。また、新聞に触れることで様々な人達と交流ができることも分かった。これから、学校や家でもっと積極的に新聞を読んだり、活用したりして行きたい。

児童2：北の杜学園では幅広い学年に新聞を活用した取り組みをしているのだと分かった。私は今までニュースで情報を得ていたけどこれからは新聞を読んでいろんな新聞のよさを見つけていきたい。また俳句や短歌をより投稿したい。

児童3：NIEについてまとめてみたら北の杜学園の取り組みやNIEの良さが更に分かったので、この良さがもっと多くの人に伝わってほしいと思った。短歌や俳句など、もっと積極的に投句したい。

児童4：新聞について、4年生と7年生にインタビューしたら、新聞を作るときの工夫や活用の仕方がいろいろあったので自分に活かしていきたい。

写真6:6年生俳句作成中

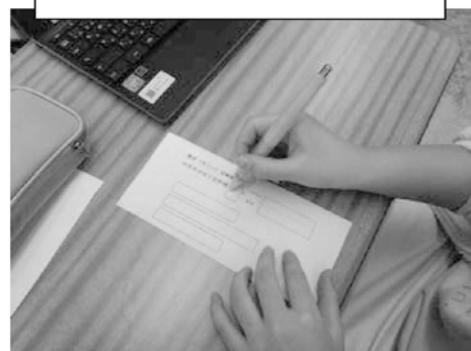
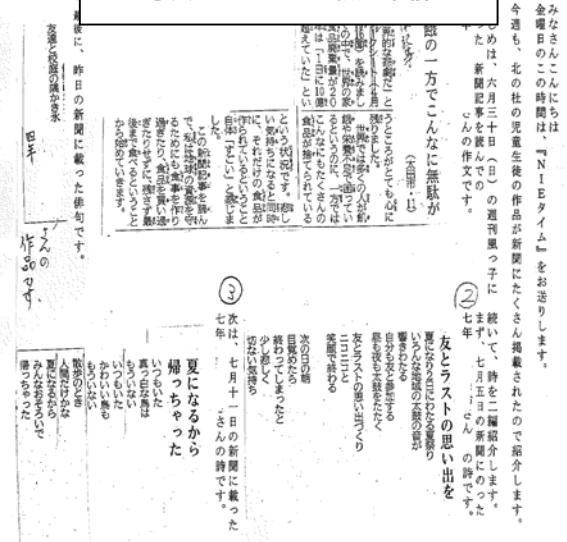


写真7:NIEタイム放送原稿



また、3学期の表彰集会で、校長先生から全校児童生徒に夏休みの自由課題「一緒に読もう新聞コンクール」において、北の杜学園が学校奨励賞をいただいたと報告があった。この他に、今年度は「群馬県小中高生新聞感想文コンクール」へも、後期課程を中心に応募がぐんと増えた。これは新聞を読んで感想を書くことが、多くの児童生徒に定着してきた表れと考える。

課題としては、下学年が新聞作成や作品投稿に積極的だったのに比べ、上學年は少し温度差があったので、学年に応じた活用が継続できるよう今後も働きかけていきたい。

「新聞に触れる」ことを通じ、情報と向き合う力を身につける ～「朝の読書」を活用した情報リテラシーの涵養をテーマに～

群馬県立玉村高等学校

1 はじめに

本校は群馬県県南部、「鶴舞うかたちの群馬県」の右羽の付け根に位置する1学年2学級の普通科高校で、令和6年度に創立102年を迎えた伝統校です。平成21年度に「ぐんまチャレンジハイスクール」の指定を受け、平成24年度からは、学校設定教科（教養表現）・特別活動・総合的な探究の時間を組み合わせた、教科横断型の教育課程である「玉高チャレンジプラン」がスタートしました。この教育活動を基盤として、生徒たちは、変化の激しい社会で主体的に生きていくために必要な学習の基礎・基本を身につけ、社会で求められるコミュニケーション能力を習得することを目標に、学校生活を過ごしています。

2 本校におけるNIE活動

（1）計画立案の経緯

令和6年度にNIE推進指定校を引き受けるにあたり、どのようにすれば生徒主体の活動となるか、数度にわたる職員会議を行いました。本校の実態として、生徒の進路希望は約半数が就職を希望しているものの、実社会の出来事に対する関心や社会構造を理解するための知識が乏しい印象があり、前年度に行った面接練習では時事的な質問に自信を持って答えられる生徒はほぼいない状況でした。生徒に自信を持って社会に巣立って欲しい、この一念がNIEに取り組む起点となりました。

また、この活動を行うのであれば、そのときだけの「付け焼き刃」にならないよう、できれば、本校を卒業した後も「新聞に親しむ」ことができるような継続性のあるものにしたい。そのためには、生徒主体の活動となるような運営と、指定校としての責任＝負担感が継続の妨げにならないよう、できるだけ既存の教育活動を活用することを考えました。

そこで、①「朝の読書」の時間を活用し、全員が新聞記事に触れる機会を設けること、②運営は生徒会の役員ではなく、各クラスの図書委員が行うこと、③活動の節目となる行事を計画的に配置すること、を活動の柱とすることにしました。

（2）実際の取り組み

①「いっしょに読もう新聞コンクール」への出品

教頭がNIEアドバイザーであることもあり、教頭が講師となり、生徒が3人1組となる「新聞回し読み」の演習を含めた、「新聞の読み方」講座を事前学習として行ないました。その後、令和6年度出品分については、入学者選抜にともなう家庭学習期間の課題として、1年生（現2年生）で取り組み、令和6年度の学校奨励賞をいただくことができました。

②「朝の読書」での取り組み

本校では朝の SHR が始まるまでの 10 分間を「朝の読書」に充てています。本校では指定校決定後の 9 月～12 月の 4 ヶ月について、次の活動を行いました。

- 《1》 登校時に職員室近くに設置した新聞置き場から週替わりで、図書委員が教室に運ぶ
- 《2》 図書委員は日直に新聞を渡し、日直は「朝の読書」の前半 8 分間を使い、気になる記事とその理由を説明できるようにする。
- 《3》 日直は残り 2 分で気になる記事を発表し、学級担任はその記事について共有できるようコメントする。
- 《4》 日直は発表した記事をマーカーペンで囲み、図書委員に手渡す。
- 《5》 図書委員は回収した新聞を図書室に届け、学校司書はその新聞を指定した場所（生徒玄関）に掲示する。

新聞は、群馬県では NIE 用に 7 紙配達されるので、6 紙を各クラスで利用できるようにし、1 紙は隔日発行の経済紙のため、進路閲覧室で進路指導用の資料としました。また、週単位でクラスに手配する新聞を交代させることで、各新聞社の論調の違い等に気付かせるように工夫しました。



③開校記念式典での講演と職員研修

10月1日は本校の開校記念日です。今年度は、日本新聞協会のNIEコーディネーターの関口修司様を講師とし、「今だから新聞～知の体力を身につけるために～」の表題で約60分間の講演を実施しました。「朝の読書」における取組が始まって1ヶ月経つ状況の中で、「なぜ読むのか」「読むことでどんなメリットがあるのか」を伝えていただくことと、全生徒が一堂に（=体育館に）会した状態で新聞を読む体験を通じて、新聞を介したコミュニケーションを取ってもらいたい、ということが依頼の趣旨でした。

また、同日、関口様を講師として職員研修も実施しました。研修のタイトルは「NIEを学年・教科でどうすすめるか」で、約90分の研修となりました。すでに教材として新聞を活用する職員も少なくない状況ですが、各個人ごとの実践にとどまっていたため、どのようにすれば、NIEを学校全体で実践することができるのか、また、NIEに限らず、ワークショップ型の研修の進め方を再確認する上でも有意義な時間となりました。



④実践指定校交流会（1月7日）

群馬県では今回初の取り組みとして、群馬県NIE推進協議会が企画し、実践指定校の児童・生徒たちが自分たちの実践をオンラインで発表・交流会が実施されました。

参加校は、太田市立北の杜学園、千代田町立千代田中学校、そして本校の3校で、オンラインに参加したのは3年生の図書委員4名でした。本校からは、学校司書が作成したNIEに関する動画を再生した後、生徒たちが「朝の読書」における取り組みを中心に15分程度

の発表を行い、質疑応答を行いました。本校生徒への質問は「気になる記事とそれを選んだ理由は?」「活動の中で、『書く』ことはありますか?」といったものがあり、生徒たちは自分たちの経験を踏まえて回答していました。

⑤卒業を控えた3年生向けのNIE講座

2月4日に上毛新聞社・伊勢崎支局長の関口健太郎様を講師に、3年生を対象にしたNIE講座を実施しました。卒業を間近に控えた3年生に対し、新聞と接する時間を持つことが、社会で活躍したり、よりよい社会づくりのヒントとなることを伝えて欲しい、という趣旨で講座を依頼し、講演の内容としては、記者として何を大切に取り組んできたか、といった職業講話にも話が展開し、生徒にとっては有意義な時間となりました。



3 実践後の変化、今後の課題について

① 生徒の変化

- ・3年生については、就職試験等の実用的な側面からNIEの実践に取り組みましたが、就職試験が終わった後も、授業で新聞記事を取り扱った際に生徒どうして「この記事、今朝の『朝読』の時間で取り上げた記事だ」といった会話が起こっていました。
- ・1・2年生でも学校司書が生徒昇降口に張り出した「生徒が選んだ今日のニュース」のコーナーを生徒が真剣に眺める姿など、新聞記事が日常生活の中に自然と溶け込んでいる様子が見て取れました。
- ・NIE実践交流会で発表した生徒からは「将来はビジネスの勉強を大学でやりたい。企業の合併の話は他人事でなく、興味深く読めた」「能登半島地震のように一瞬で大切な人や場所を失うことの怖さを新聞を読むことを通じて改めて感じた」など、新聞を自分の生活と結びつけて考えられるようになっていることに心強さを感じました。

② 今後の課題について

実践指定校の1年目の課題は「新聞に親しむ」でしたが、2年目になる来年度は「読む」だけでなく、「書く」「話す」といった領域への取り組みを充実させ、新聞を「活用する」ことを活動のテーマにしたいと思っています。特に、新聞における「書く」ことは、読者を想定した「対話」であることに着目し、現行の学習指導要領が掲げる「主体的・対話的で、深い学び」を体現する活動の一つとして大切に取り組んでいきたいと考えています。

2024年度NIE実践報告書

高崎健康福祉大学高崎高等学校

小谷 魁星

1 はじめに（学校紹介）

本校は1936年に須藤和洋裁学院として創立し、1968年に群馬女子短期大学附属高等学校を開校。2001年に現校名となる高崎健康福祉大学高崎高等学校に改称。普通科の中に特進コース、大進コース、進学コース、アスリートコースの4つのコースがあり、コースによって大きく変わるカリキュラムが特徴で、アスリートコースに所属している硬式野球部は2024年の春の選抜高校野球大会で県勢初の優勝を果たした。全校生徒は約1300人。「総合的な探究の時間」には力を入れており、その中で「自分で問い合わせ立てて主体的に学ぶこと」「協働しながら学ぶこと」「ICTツールを活用して学ぶこと」を柱に、主体的・対話的な活動や研究を通して、より良く課題解決する能力や自らの資質を高め、成長し、生きるための力を育成している。

2 内容

①学校全体での取り組み内容

各クラスに新聞が1部ずつ置いてあり、日常的に新聞を手に取る機会はある。授業の中では簡単に触れるくらいで、新聞を活用した授業というものは少ないようと考えられる。

②どこに新聞を置き、どのような工夫をしたのか

→3年生の教室がある2階の人通りが多い廊下に、新聞を置き自由に閲覧できるようにした。授業の中でも2週に1度はNIEを行っていたので、新聞を読むことを定期的に促していた。

③複数のクラスで使用する場合のローテーション

→1クラスのみ担当だったため、ローテーションは不要。

3 実践事例

①どの教科・科目、領域等で実践したか

公民科、政治経済の「現代の日本経済と福祉の向上」（教科書：実教出版P84～）という単元で、一通り教科書の内容に取り組んだ後に現代の世の中の動きに触れようと実践。

②研究のテーマ 「社説の読み比べ」

今回取り上げた新聞記事は、「立憲民主党代表選告示」に関してで、4つの新聞社の社説から、同じ事柄について書かれている記事でも、見方が社によって違うことを発見する。1つの物事でも書き方によって印象が全く違うことから、物事を多角的、多面的に見る力を養う。世の中の動きに興味を持ったうえで、今の世の中の財政がどのようにして行われているのか、他国と比較しながら自身で新聞を作成する。

③実施クラスの生徒観

実施する3年1組はアスリートコースに所属しており、活発な生徒が多く普段から会話を多くしながら授業に取り組む様子が見られる。このクラスはアスリートコースでも学力が最も高く、進路実現に向けて懸命に努力する様子が見られる。普段から世の中の動きについて、新聞やニュース、授業を通して注視している。男女関係なく仲が良く、グループ活動も滞りなく取り組むことができるので、授業者としては一緒に授業を作り上げていく上で、やりやすさを感じることができるクラスである。

④学習指導案

○学習計画

- 1、日本経済の成長と課題 2、中小企業と農業 3、消費者問題 4、公害防止と環境保全
 5、労働問題と労働者の権利 6、こんにちの労働問題 7、社会保障の役割と課題 8、NIE(本時)
 9～11、新聞作成

⑤学習展開

	主な学習内容	指導上の留意点	準備物
導入 3分	・最近気になるニュースに関して、2人1組で1分間スピーチ	・考える時間を少し与える。	
展開 ① 17分	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞く。 ・4社の新聞読み比べを班で行うため、4人1組の班を作成。 ・4人で読み合わせをする。 ・わからない単語に線を引く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・立憲民主党代表選が告示されたことから、4つの新聞社の社説について取り上げることを話す。 ・段落読みで読み合わせをさせる。 ・わからない単語に線を引かせる。 	・新聞4社のコピーを人數分。
展開 20分	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞く ・4社の違いをまずは自分自身でもう一度読み、考察する。 ・自分の考えがまとまれば、グループワークで班員と考えを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ここから4社のどういう立ち位置で社説を述べているか考察させる。 ・まだグループでやらないことを伝える。 ・話をするときは作業をしないよう促す。 	
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを記入する。 ・話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的にこの授業で感じたことや、意図はどういうものであったか記入するよう促す。 ・次回取り組むことの説明を受ける。 	・人數分のワークシートを準備。

4 実践前後の変化

まず、私の授業では、初めのアイスブレイクとして、毎授業テーマを決めて1分間のスピーチをさせていく。学期が始まったころよりも、NIEの取り組みを始めてから時事問題や世の中の動きに関してのスピーチをする生徒が増え、教科書内の出来事を身近に感じようとする姿が見えるようになった。進路の面接練習をしていても、授業内で取り組んだNIEの内容に関する話が出てくるなど、その成果が出たと感じている。

①生徒の感想

- ・同じ内容の記事でも、新聞社によって切り口や視点が違っており、人間味が表れていることを今回初めて知った。
- ・読みやすさも新聞によって全く違っていたため、今後自分が制作するにあたってわかりやすさの追求を考えるべきだと思った。
- ・様々な立場に立って、いろいろな観点に目を向けることで固定概念にとらわれず、正しい情報の選択や他方の意見を聞き入れつつ自分の考えを持つことができる事が大切だと感じた。
- ・どの新聞社とも同じ立場だったとしても参考にしているデータなどは異なっていた。
- ・今の社会情勢を知ることや、選挙権を持ち始める人への選挙の大切さや、情報の表現の方法による感じ方の違いを実感するのにいい機会だった。

②教員の感想

NIEの実施は、教科の特性を考えると、取り組みやすい教科、そうでない教科にわかれる感じた。地歴公民科としては、教科書の中にある用語が、実生活でも出てくることが多いので、教科書の中の出来事を自身の実生活に結びつけるために、新聞を活用した授業は日常的に必要であると考える。教員は世の中の動きを知つていて理解できていないことが多くあるので、自分がまず新聞に触れる機会を増やすべきだと考える。また今回の授業形式は、グループの中で取り組むものだったので、生徒観がかなり重要だと感じた。

③今後の課題

正直、我々教員自身も新聞離れが進んでいるので、意識して新聞から情報を得る習慣をつけることが必要だと感じる。教材研究の手段の一つとして、新聞を活用するのも面白いのではないかと感じた。次年度も継続していくながら、他の先生方にも共有していきたいと思った。



次ページワークシート

NIE ワークシート

名前

1、今回取り上げた題材を、簡潔に説明してみよう。

2、4つの新聞社の記事を取り上げましたが、その内容や書き方の違いを比較してみよう。

3、4社を比較した中で感じたことを書き出してみよう。

4、最後に今回の授業の目的はどのようなものだったか、考えてみよう。

【これまでの実践校】

- ◆2004年度 笠懸中、万場高、創世中等教育、昭和南小、高崎大類小
- ◆2005年度 万場高、創世中等教育、昭和南小、高崎大類小
- ◆2006年度 伊勢崎境剛志小、伊勢崎境西中、太田東中、西邑楽高、富岡高瀬小、高崎寺尾小、前橋新田小、前橋一中
- ◆2007年度 富岡高瀬小、高崎寺尾小、前橋新田小、前橋一中、高崎西部小、太田沢野中央小、太田生品中、沼田小
- ◆2008年度 太田沢野中央小、太田生品中、沼田小、伊勢崎四中、館林二中、太田女子高、尾瀬高、館林高定時制
- ◆2009年度 太田生品中、伊勢崎四中、館林二中、太田女子高、尾瀬高、板倉北小、前橋元総社中、太田高
- ◆2010年度 太田生品中、板倉北小、前橋元総社中、太田高、桐生新里北小、前橋大利根小、伊勢崎殖蓮中、勢多農林高
- ◆2011年度 板倉北小、新里北小、前橋大利根小、伊勢崎殖蓮中、勢多農林高、高崎城東小、太田西中、太田強戸中
- ◆2012年度 前橋原小、高崎片岡小、伊勢崎豊受小、千代田東小、桐生広沢中、太田西中、太田強戸中、館林商工高
- ◆2013年度 前橋原小、伊勢崎豊受小、千代田東小、高崎高松中、桐生広沢中、太田西中、太田強戸中、昭和中、館林商工高、群馬法科ビジネス専門学校、大泉保育福祉専門学校
- ◆2014年度 群馬大附属小、伊勢崎豊受小、高崎高松中、太田西中、沼田南中、昭和中、藤岡中央高、西邑楽高、館林商工高、群馬法科ビジネス専門学校、大泉保育福祉専門学校
- ◆2015年度 群馬大附属小、高崎南小、桐生川内小、太田西中、沼田南中、館林四中、甘楽二中、藤岡中央高、西邑楽高
- ◆2016年度 高崎南小、桐生川内小、昭和東小、館林四中、甘楽中、前橋富士見中、高崎一中、沼田南中、太田西中、西邑楽高
- ◆2017年度 昭和東小、沼田利南東小、高崎新高尾小、桐生相生中、太田東中、前橋富士見中、高崎第一中、沼田沼田南中、尾瀬高
- ◆2018年度 高崎新高尾小、沼田利南東小、太田東中、桐生相生中、高崎大類中、嬬恋中、沼田薄根中、伊勢崎高、尾瀬高
- ◆2019年度 沼田利南東小、館林八小、高崎大類中、高崎一中、沼田薄根中、嬬恋中、ぐんま国際アカデミー中高等部、伊勢崎高、吉井高
- ◆2020年度 太田綿打小、館林八小、沼田薄根中、高崎一中、嬬恋中、ぐんま国際アカデミー中高等部、伊勢崎高、吉井高、高崎商
- ◆2021年度 館林二小、館林八小、安中松井田小、太田綿打小、甘楽中、ぐんま国際アカデミー中高等部、沼田薄根中、高崎商、常磐高
- ◆2022年度 安中後閑小、安中松井田小、板倉西小、北の杜学園、邑楽長柄小、館林二小、甘楽中、沼田薄根中、常磐高
- ◆2023年度 安中後閑小、板倉西小、邑楽長柄小、館林二小、千代田東小、千代田西小、太田北の杜学園、千代田中、嬬恋中

2025年6月発行

2024（令和6）年度

群馬県NIE実践報告書

編集 群馬県NIE推進協議会事務局
発行者 群馬県NIE推進協議会
事務局 〒371-8666 前橋市古市町1-50-21
上毛新聞社内
電話 027-254-9933（編集局代表）
<http://www.gunma-nie.org>
